

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年3月14日 NO.97



- 花ちゃん 「あれあれ？みんな、校長室の前にいるわ。」
- オー君 「何をやっているのかな。」
- 子ども1 「これはね、『知恵（ちえ）の木』というものなんです。」
- オー君 「え！『知恵の木』？何だ、そりゃ。」
- 子ども2 「ジグソーパズルというのがあるでしょ。この『知恵の木』というのは、ジグソーパズルのように、ぴったりと積（つ）み上げて完成（かんせい）させるものなんです。」
- 子ども3 「つまり、『つみき』のようなものなんです。」
- 子ども4 「ただし、ただ積むだけではいけないんです。」
- 子ども5 「いろいろな面（めん）のようすをよく見て観察（かんさつ）して、頭を使って積み上げていくので、『知恵の木』という名前があるんです。」
- 花ちゃん 「なるほど。いい名前をつけましたね。私もチャレンジしたくなりました。」
- 子ども6 「それは、いいことですね。ところで、花ちゃんは、初級・中級・上級？」

花ちゃん 「初級・中級・上級？何ですか。それは？」

子ども7 「初級は木が2つで、とても簡単（かんたん）
なんです。」

子ども8 「中級は木が3つあって、少し難（むずか）
しくなっているんです。」

子ども9 「上級は木が4つになっていて、とても
とても難しいんです。」



オー君 「難しいといわれると、おいら、チャレンジスピリットが燃（も）えてくるな。」

子ども10 「あのね、『知恵の木』 つみきのヒントはね、木のもようをよーく見ることなん
です。そうすれば、けっこう簡単（かんたん）なんですよ。」

花ちゃん 「この『知恵の木』はいろいろな種類（しゅるい）があるんですね。」

子ども11 「そうなんです。サクラ・コナラ・エゴノキ・アカシデ・リョウブの5種類な
んです。そのうち、もっと種類がふえるみたいですよ。」

オー君 「なーるほど。よく見ると、木のまわりって、いろいろな特徴（とくちょう）
があるんだね。おいら、ちっとも気がつかなかった。」

子ども12 「そうですね。サクラは、すじが横になっているでしょ。アカシデはたての
すじがはっきりしているし、エゴノキは、あまりすじがないのよ。」

子ども13 「それから、リョウブはまだらのもようみたいなのが見えるでしょ。コナラは、
ゴツゴツした感じがするわ。」

子ども14 「木によって、いろいろな特徴があることに気づく事が大切なんです。」

子ども15 「さらに、遊びながら、木の感触（かんしょく）を楽しんだりこともおすすめ。」

子ども16 「そうなんだ。木のもつやわらかな感じや、あたたかみを感じてほしいという
ことで、作ってもらったんです。」

花ちゃん 「え！だれが作ったんですか。」

オー君 「そんなの決まってるよ。こういうものを子ども達に作るのは。あの人だけさ。」

花ちゃん 「あの人というのは・・・。あ！わかった。あの人だ！」

花ちゃんオー君 「モンタ博士！どうもありがとうございました。たくさん遊びませう。」